

水道管取り替え工事担う人材を 専門学校生にベテランが指導

03月08日 16時31分



老朽化した水道管の取り替え工事にあたる人材が不足する中、宇都宮市で学生たちがベテランの技術者から指導を受ける実習が行われました。

この実習は昭和初期から高度経済成長期に設置された水道管が老朽化して取り替えの時期を迎える

中、工事にあたる技術者を育成しようと、水道管工事の業界団体などが宇都宮市で開きました。

8日の実習には県立県央産業技術専門校の学生20人が参加し、ベテランの技術者から水道管工事の手順について指導を受けました。

学生たちは、水道管から各家庭に水を分ける「分水」と呼ばれる作業について詳しく説明を受けたあと、実際に鋳鉄製の水道管にドリルで穴を空けるなどの作業に取り組んでいました。

参加した学生は「自分たちが料理などに水を使えるのは技術者のおかげだと感じました。実習を通じて工事の流れを体で覚えることができよかった」と話していました。

学生たちを指導した宇都宮市管工事業協同組合によりますと、水道管工事の業界では人手不足感が強まっているということで、福富昭 青年部会長は「必要不可欠な業界なので、若い人にはぜひ縁の下の力持ちとして活躍してもらいたい」と話していました。